

県北にトランポリンを普及しようプロジェクト

分野：課外活動、地域交流

代表者：工学部生体分子機能工学科 3年 味岡 真央

連携先

日立市教育委員会 スポーツ振興課
課長 木下俊雄様
日立市議会議員 蛭田三雄様

顧問教員

平田輝満（工学部・准教授）

参加者

味岡真央（工学部生体分子機能工学科 3年）
阿部舞（工学部都市システム工学科 3年）
森一磨（工学部機械工学科 3年）
田上有希（教育学部人間環境教育課程 3年）

プロジェクトの概要

●プロジェクトの背景

トランポリン運動は、単に競技スポーツとしての魅力のみにとどめておくに忍びない多くの存在意義を有している。

トランポリン運動を行うことで、日常では体感できない浮遊感や爽快感を得ることができる。また、子どもはもちろんのこと、大人や障がいを持った方まで幅広く楽しむことができ、社会教育・レクリエーションスポーツとしての地位を確立しつつある。さらに、トランポリンで鍛えた体幹や空中でのバランス感覚を他のスポーツ（モーグル、スノーボードなど）に応用している事例も見受けられる。最近では、ダイエットやストレス解消のためのエクササイズの一つとして、トランポリンダイエットなるものが注

目されている。

このように、様々な魅力・存在価値を有するトランポリンであるが、現在、ここ茨城においては、県南地域にはトランポリンクラブが複数ある一方、県北地域にはトランポリンを体験できる施設はほとんどなく、地域による差が見受けられる。そこで、県北地域でもトランポリン競技を盛り上げ、トランポリン競技とその魅力を普及していきたいと考え、本プロジェクトを始めた。

また、2019年に開催される茨城国体からトランポリン種目が国体競技として導入されることを本プロジェクトを通してPRし、トランポリン競技の更なる発展に寄与したいと考えた。

●プロジェクトの目的

- ①県北地域でのイベントに参加し、トランポリン体験会を実施することで、トランポリンがどのような競技であるかを知ってもらう。
- ②茨城国体にトランポリン種目が導入されることをPRする。

プロジェクトの成果報告

●プロジェクトの内容とその成果

本プロジェクト参加者4名は、公益財団法人日本体操協会公認のトランポリン普及指導員資格を有しており、後述のイベントでトランポリンの指導を行った。

当初予定していた4つのイベントのうち、

以下の3つのイベントでトランポリン体験会を実施した。基本的なジャンプや技の指導にあたった。



図1 基本的な技
タック (左上)
パイク (上)
ストラドル (左)

3. こうがく祭

(参加者：250名、2018年11月3日)



図3 イベント前に配布したチラシ
(市内小中学校、幼稚園保育園に掲示)

1. ぷら・スポフェスタ

(参加者：280名、2018年10月7日)

2. はくさんまえ公園祭り

(参加者：200名、2018年10月14日)



図2 イベント前に配布したチラシ
(市内のスーパー、公共施設に掲示)

体験者はのべ700人を超え、各イベントとも大盛況のうちに終わることができた。

(茨城県県北生涯学習センターで毎年行われている生涯学習フェスティバルに参加する予定だったが、台風接近のため、イベントの一部が中止になり、参加することができなかった。)

●実施したイベント

1. ぷら・スポフェスタ

日立市池の川さくらアリーナで行われた日立市体育協会主催のぷら・スポフェスタにて、トランポリン体験会を実施した。主に地元の子どもたちに跳んでもらった。

このイベントは、毎年参加者が1000人を超える非常に規模の大きいものであるため、遠方から足を運ぶ方々もおり、日立市のみならず他の市町村の方々にもトランポリン

の魅力および国体にトランポリン種目が初導入されることをアピールするいい機会となった。

同日に開催された、国体 PR イベントである国体開催 1 年前クリーンアップ運動に参加し、会場周辺の清掃活動を行った。



図 4 国体開催 1 年前クリーンアップ運動に参加した様子



図 5 体験会の様子

2. はくさんまえ公園まつり

日立市川尻町にあるはくさんまえ児童公園で毎年開催されている、はくさんまえ公園まつりの体験コーナーの一つとして、トランポリン体験会を行った。主に近所に住んでいる子どもたちに体験してもらい、活気あふれるものとなった。また、小川春樹日立市町にも体験していただいた。(図 6)



図 6 小川春樹日立市長が体験してくださった様子

3. こうがく祭

茨城大学日立キャンパスにて開催されたこうがく祭で、トランポリン体験会を実施した。終始客足が途絶えることはなく、子どもから大学生、社会人の方まで幅広い世代に楽しんでいただけた。一回だけでなく何回も跳んでくれる子どもたちもいて、笑顔で跳んでいる姿が非常に印象的だった。

また、トランポリンの模範演技も行い、トランポリン競技の普及に尽力した。(図 7)



図 7 模範演技の様子

●アンケート結果

ぷら・スポフェスタでは参加者 101 名にアンケートを実施し、体験会の感想および国体の認知度について調査した。(図 8)

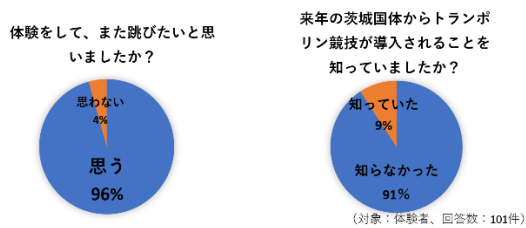


図 8 アンケート結果

一人当たりの体験時間は短かったが、「とても楽しかった」、「また跳びたい」などの声をいただいた。

国体のトランポリン競技は稲敷市で開催されるため、県南での普及活動は活発である。そのため、今回参加して下さった 9 割以上の方にトランポリン競技が行われることを知ってもらい県北での普及活動は成功したと感じている。

●最後に

上述の通り、本プロジェクトでの体験者はのべ 700 人を超え、私たちの予想を上回る結果に終わった。日立市で活動している「日立トランポリンクラブ」への問い合わせは増え、とある団体からの出張体験依頼のお話もいただいた。2月23日には日立市体育協会様のご依頼でトランポリン教室を行うことができた。教室は申込開始 30 分で定員を大幅に超えてしまったということの後日聞き、地域に定着したことを実感した。参加しているお母さんやスタッフで次の指導者への道が見え、私たちが卒業した後も

継続できる環境が整いそうだ。1 年だけのプロジェクトではあったが、トランポリン競技とその魅力の普及およびトランポリンを通じた地域の活性に貢献することができた。

●今後の課題

今回のイベントはすべて日立市にとどまってしまったため、県北地域の他の町にも範囲を広げてイベントを行っていきたい。